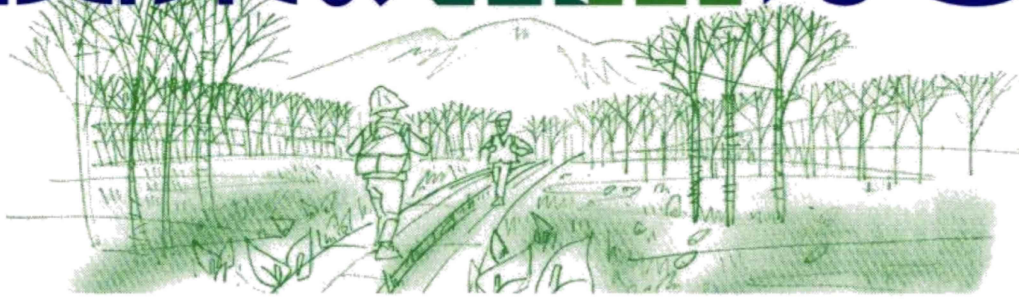


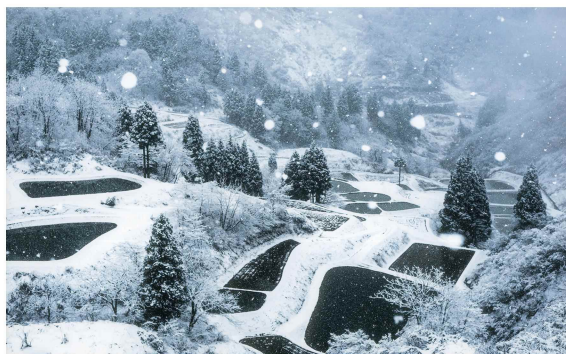
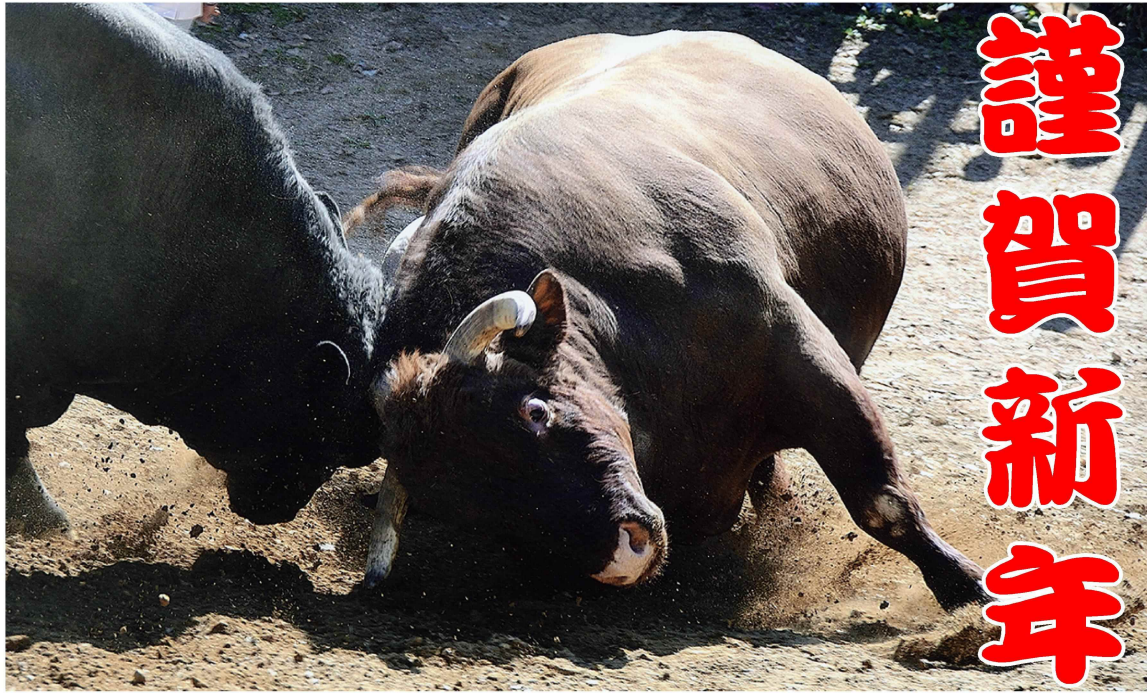
関東の森林から



国民の森林・国有林

関東森林管理局

前橋市岩神町4-16-25
TEL.027-210-1158
<http://www.rinya.maff.go.jp/kanto/>



旧山古志村「牛の角突き」

中越森林管理署 (写真提供：長岡市山古志支所 産業建設課)

- ◎ 局長 新年のご挨拶 上大田 光成 関東森林管理局長・・・2
- ◎ 木材を利用した建築物等の紹介
「天竜材使用 有明体操競技場 ウッドデザイン最優秀賞」 東京事務所・・・3
- ◎ 「令和2年度関東森林管理局国有林野等所在市町村長有志連絡協議会」を開催
企画調整課・・・4
- ◎ 林業試験地から 森林技術・支援センター・・・6
- ◎ 出向者との意見交換会 2年ぶりに開催 総務課・・・7
- ◎ 森づくり最前線 静岡森林管理署 静岡森林事務所 森林官 望月 弘司・・・8



新年のご挨拶

関東森林管理局長 上大田 光成

令和3年の新春を迎え、謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

皆様方には、日頃より関東森林管理局の業務運営はもとより、林野行政全般にわたり、ご理解とご協力をいただき、厚く御礼を申し上げます。

昨年は、令和2年7月豪雨による長期にわたる集中豪雨など、関東森林管理局管内において甚大な被害が発生しました。亡くなられた方々のご冥福をお祈りするとともに、被災された全ての方々に心よりお見舞い申し上げます。

近年頻発する自然災害を鑑みますと、荒廃山地の復旧整備を始めとした森林の整備や治山対策の重要性が高まっています。関東森林管理局としましても、被災地の早期復旧に努めるとともに、災害に強い森林づくりを推進し、山地災害の予防など事前防災、減災対策に引き続き取り組むことにより、安全・安心の一層の確保に努めてまいります。

さて、我が国の森林・林業については、人工林の多くが本格的な利用期を迎えています。この豊富な森林資源を「伐って、使って、植える」という形で循環利用していくことで、豊かな森林を次世代へ継承していくことが大きな課題となっています。

林業を成長産業にしていく上で、森林施業の低コスト化・省力化、労働安全の確保は重要な課題です。このため、関東森林管理局では、コンテナ苗の活用や、高性能林業機械を活用し伐採から造林までの作業を連続して行う一貫作業システム、かかり木が少ない列状間伐を管内全域で推進しており、こうした施業方法が民有林にも広く普及するよう本年も現地検討会を開催してまいります。

また、森林経営管理制度の施行も踏まえ、地域の森林づくりについて、市町村や林業関係者等への技術的支援を行う森林総合監理士（フォレスター）の育成、「民国連携推進地区」における都県と連携した地域の森林・林業の課題解決に向けた取組等を進めます。

国有林を名実ともに「国民の森林」とするためには森林の公益的機能の発揮を重視した管理経営が重要です。

このため、多様な森林整備の推進や鳥獣被害の防止対策を講じています。特にシカ等の野生鳥獣の生息域が拡大し、食害等が深刻化していることから、銃猟における安全確保を第一としつつ、地域と連携しながら、捕獲の実施、防護柵等の設置による食害の防止、被害状況や生息状況の早期把握を実施します。

国有林は、国民共通の財産です。

国民の皆様のご意見・ご要望をよく聞かせていただきながら、期待に応えられるよう仕事を進めていきたいと考えております。

関東森林管理局の広報誌「関東の森林から」では、よりわかりやすく関東森林管理局の取組を皆様にお伝えしてまいりますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

結びに、新しい年が皆様にとって健康で幸多い年となりますよう祈念申し上げまして、年頭のご挨拶とさせていただきます。

木材を利用した建築物等の紹介

東京事務所

日本の人工林資源は、今まさに、本格的な利用期を迎えており、適切な森林整備を進めていくためには、国産材の積極的な利用を促進していくことが重要です。

関東森林管理局東京事務所では、東京都内における木材使用の施設や木材の需要拡大などに向けた取り組みなどについて、取材・紹介していきます。

ウッドデザイン賞2020

最優秀賞に 有明体操競技場



外壁の半分以上に天竜材が使われている
有明体操競技場（浜松市提供）

12月11日 第6回を迎える「ウッドデザイン賞2020」の432点の応募作品の中から、最優秀賞（農林水産大臣賞）に東京五輪・パラリンピックの新設会場である有明体操競技場（東京都江東区）が選ばれました。

受賞理由として事務局は、日本の伝統的な木造建築の美しさを挙げた上で「日本の『木を使い、木と親しむ文化』の海外への発信を担うにふさわしい作品」と評価しています。

同競技場は五輪の新設会場で最大となる約23000立方メートルの木材を全国から集めて建てられ、外壁約800立方メートルのうち、426立方メートルには持続可能な森林管理の国際基準「FSC認証」を受けた天竜スギが使用されています。



浜松市は、市長のトップセールスをはじめ、官民が一体となって森林認証による天竜材のブランド化に積極的に取り組み、地産地消はもとより全国屈指のFSC認証材供給能力を発揮しています。天竜森林管理署においても、昨年1月に約3000立方メートルを追加認証するなどFSC材の安定供給に努めているところです。

※ウッドデザイン賞は、木の良さや価値を再発見させる製品や取組について、木で暮らしと社会を豊かにするモノ・コトを消費者目線で評価する新しい顕彰制度です。

「令和2年度関東森林管理局 国有林野等所在市町村長有志連絡協議会」を開催 企画調整課

（国有林野等所在市町村長等有志協議会について）

国有林野等所在市町村長等有志協議会（以下、「有志協議会」という）は、国有林野等の所在する地域の市町村長及び森林管理署長等で構成しており、関東森林管理局管内の174市町村を19流域に分けて地域ごとに有志協議会を設立し、森林管理署等に事務局を置いています。

有志協議会では、地域社会と国有林野事業の連帯の強化を図り、地元農山村の社会経済の発展と国有林野事業の円滑な遂行に寄与することを目的として市町村長等との意見交換を実施しています。

（国有林野等所在市町村長等有志連絡協議会とは）

国有林野等所在市町村長等有志連絡協議会（以下、「有志連絡協議会」という）は、19流域の各有志協議会との連絡調整のため、関東森林管理局に事務局を置き、年1回、各流域の代表市町村長等の皆様にお集まりいただき、意見交換のための会議を実施しています。

（令和2年度有志連絡協議会の開催）

有志連絡協議会は、例年、集合形式にて開催していましたが、今年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止対策として11月25日（水）にWeb会議方式で開催し、管内19地域の代表市町村長等にご参加いただきました。

今年度の有志連絡協議会では、林野庁から最近の森林・林業をめぐる情勢等について、関東森林管理局から局の取組と民有林行政への支援について説明を行った後、意見交換を行いました。

意見交換では市町村長等の皆様から、

- ・林道の維持管理に係る補助事業の拡充や太陽光発電に係る森林転用等の法制度の強化をお願いしたい。
- ・森林共同施業団地設定に向け、検測による国有林と民有林の境界の確定を進めてほしい。
- ・国有林内の林道及び森林の適正な整備を推進してほしい。
- ・国有林を観光資源として活用したいので協力してほしい。
- ・豪雨により被災した山林について、治山事業を積極的に推進してほしい。
- ・松くい虫やナラ枯れなど病虫害への対策に国有林と連携して取り組んでいきたい。
- ・流木対策を踏まえた今後の森林整備の考え方について教えてほしい。
- ・新型コロナウイルスにより、今後、観光産業に大きな影響が出る場合は国有林としても何かしらの対策を講じてほしい。
- ・低炭素化の取組に係る環境省と林野庁の連携に関して今後情報があれば提供してほしい。
- ・林業従事者が地域に定着するための将来的な収入増加の方策について教えてほしい。
- ・日本の土地に合った高性能林業機械の開発を促進してほしい。
- ・林業従事者の担い手確保の取組について教えてほしい。
- ・広葉樹の活用に係る情報の提供や支援制度の拡充をお願いしたい。
- ・国有林野内の廃業したスキー場の施設について、景観上問題があるので対応をお願いしたい。
- ・国有林からの落石があるため通行止めになっている遊歩道について、対策を実施してほしい。
- ・公共建築物の木材利用に対する補助メニューを拡充してほしい。

・林道及び作業道の新設・復旧の際は、現在より強度の高い構造体を検討してほしい。
等のご意見・ご要望をいただいたほか、各地域における森林・林業・木材産業の取組状況をご報告いただくなど、活発な意見交換となりました。

関東森林管理局では、いただいたご意見・ご要望を踏まえて、地域社会と連携した国有林野の管理経営に取り組んでまいります。



今月の表紙

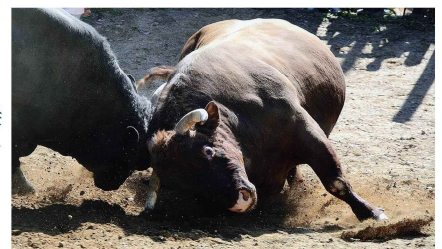
旧山古志村「牛の角突き」

(中越森林管理署 写真提供：長岡市山古志支所 産業建設課)

新潟県長岡市東部の山古志地域(旧 山古志村)は、「牛の角突き」と錦鯉発祥の地の一つとして有名です。

国指定重要無形民俗文化財に指定されている牛の角突きは、昔から農耕や運搬の働き手であった牛とその飼い主の密接な関係が今でも残っており、牛が傷つかないように勝負は引き分けにするのが特徴です。

山古志地域は平成16年に発生した中越大震災では壊滅的な被害を受け、全住民避難を余儀なくされましたが、民有林直轄治山事業を始め様々な復興事業が進み、現在では美しい棚田と、鯉を養殖する棚池を取り戻し、復興の道を歩んでいます。



参考資料：長岡市HP「国指定重要無形民俗文化財 越後山古志 牛の角突き」



日本で現在栽培されているきのこ Part5



タモギタケ (ヒラタケ科 ヒラタケ属)

7月中旬から8月上旬にハルニレの立枯木や倒木に群生する。

カサは3cm～7cmで鮮黄色でロート形に開きます。

柄は白色で5cm～7cmです。

ヒダは白色で柄に垂生します。



トキイロヒラタケ (ヒラタケ科 ヒラタケ属)

6月下旬から7月中旬に広葉樹特に藤蔓の立ち枯れ木や枯れ枝に群生する。

カサは半円形で径3cm～5cmで表面は平滑でトキ色からピンク色である。

柄はカサと同色で1cmくらいです。ヒダはピンク色で柄に垂生する。



林業試験地から

森林技術・支援センター

新年明けましておめでとうございます。

新年にご紹介するのは、多面的機能の森林づくりを目的とした「大沢試験地」です。

平成8年度に、針葉樹の一斉人工林の伐期の長期化に伴い、適度に広葉樹を導入配置して林分内容の多様化を図り、木材生産機能と公益的機能のバランスのとれた効率的な森林づくりの森林管理手法を確立する林分設計としました。(写真1)

この試験地の所在は、茨城県東茨城郡城里町(七会地区)の鶏足山(ケイソクサン430.5m)の麓、大沢国有林258ろ2林小班外に1952(昭和27)年にスギ、ヒノキ、アカマツを約21haを再造林した69年生の林分です。

一部の施業履歴は、初回間伐等を昭和50~52年、昭和63年に実施、その後、広葉樹の導入を図ることを目的に平成7~20年の間に4回の目的林分移行の間伐を一部又は全区域を実施しています。

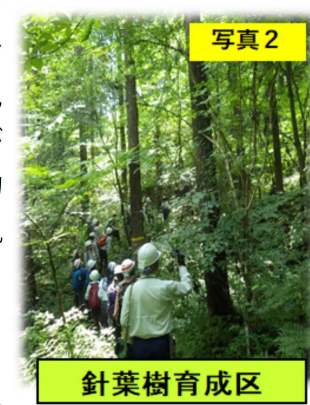
この林分設計は、五つの目的生態系ブロックにゾーニングしました。最初は「針葉樹育成区」写真1の黄緑色のエリアは、植栽木の成長が良好で木材生産を高度に発揮させるため間伐を繰り返しながら長伐期に導き経済価値の高い林分に移行することを目的としています。(写真2)

次は、黄色のエリアの「現広葉樹区」で、アカマツ植栽後にマツクイ虫被害を受け、コナラやカエデなどの落葉樹の占有が特徴の林分です。3番目として「針広二段林区」桃色エリアは、針葉樹の生長が若干劣る林相樹下に広葉樹を導入して針葉樹と広葉樹を混交化し生物の多様性も考慮することとして当初設定しましたが、その後の針葉樹の成長が良好な箇所が見られたことから、平成25年度に当初計画した針広二段林の一部を、「針葉樹育成区」にエリアの見直しをおこなっています。また、「広葉樹育成区」の緑色エリアは、林木の生育が劣る尾根筋で林業経営が困難な条件地形等の林分域で、天然力による生物多様性のほかに林地保全も考慮しています。現況は高木性樹種として、アオタモ、アラカシ、シラカシが生育し、カシ類の樹高成長が顕著に現れています。

最後は、「溪畔保残区」の水色エリアで、溪岸流域であり、水性動植物の生態向上を目的とし、平成11年からの4年間に広葉樹のハルニレ・サイカチ・ケヤキなど人工植栽(写真3)しています。

大沢試験地を訪れる林業関係者の方々には、木材生産を優先する意見や生態系の必要性から長伐期施業も選択肢にあるなど様々な意見があり、今後の林分生長が楽しみな試験地です。森林総合研究所でも、野鳥観測を定期的に行っています。

試験地アクセスのお勧めは、城里町上赤沢鶏足山駐車場から富士山が見える赤沢富士から南峰三



角点を目指します。南峰（写真4）から大沢峠に向かう途中に試験地に下る歩行ルートがあり、各林分や植物プレートを設置しているので草本植物の視察が可能となっています。また、かの弘法大師が修行し鶏足山の命名の逸話となっている鶏石（写真5：山頂祠・にわとり石）などの歴史探訪の寄道ルートもあることから、一度訪れては如何でしょうか。

本年も、新型コロナウイルスの防止対策を講じた上で、可能な限り試験地の視察を受け入れ実施することとしているので問合せのほどよろしくお願ひします。

写真5



鶏足山の祠

にわとり石

出向者との意見交換会を2年ぶりに開催 総務課

林野庁から関東森林管理局管内の県・市町村へ出向している職員の方々9名との意見交換会を11月26日・27日に開催しました。

昨年度は台風災害の影響で開催できませんでした。今年度もコロナ禍の影響で開催が危惧されましたが、大会議室でソーシャルディスタンスを確保するなど、感染防止対策を図りながら2年ぶりに開催することが出来ました。

意見交換会の冒頭に、上大田局長から「出向先では地元ライフを楽しんで、地元の方々に愛されるよう頑張ってお出向先の仕事に取り組んで頂きたい。」と激励の挨拶があり、その後中村企画調整課長から、森林管理経営制度と森林環境贈与税の説明、松尾技術普及課長から、民有林と連携した国有林の取り組みについて事例を交えて紹介しました。

続いて、出向者の方々から、県・市町村で取り組んでいる林業行政について紹介して頂いた後、意見交換を行いました。「国有林との共同施業団地に林業教育施設を設置して欲しい。」「シカ対策現地検討会は引き続き開催して欲しい。」「民国連携でドローンの活用や飛行訓練の実施をして欲しい。」など国有林に期待する様々な要望が出されました。また、出向者が勤務する県・市町村へ森林管理署の職員がもっと出向いて欲しいとの声もあり、中村次長から「森林管理署の職員も県・市町村へ積極的に顔を出して、情報交換できる環境を整えていきたい。」と前向きな回答がありました。

今年度は、コロナ禍の影響で参加者数も制限せざるを得なかったところですが、来年度は他省庁への出向者にも参加を呼び掛けるなども検討し、更に有意義な意見交換会になるよう工夫して開催する予定です。



森づくり最前線

静岡森林管理署 静岡森林事務所
森林官 望月 弘司

私の勤務する静岡森林事務所は、静岡市の北部、安倍川・興津川の源流部に位置し、北は山梨県に接する脊梁地帯約4,200ha（官行造林地を含む）を管轄しています。

安倍川は山梨県境から駿河湾までの約50km、標高差2,000mを一気に流れ下る日本有数の急流河川で、源流部の梅ヶ島国有林には、1

707年（宝永4年）の宝永地震（地震の49日後に富士山宝永大噴火が発生）によってできた日本三大崩れの一つ「大谷崩れ」がありません。



大谷崩れ(梅ヶ島国有林)

梅ヶ島国有林下流では、古くから台風等の自然災害を受けてきた歴史があり、昭和30年から民有林を買い上



治山事業(梅ヶ島国有林)

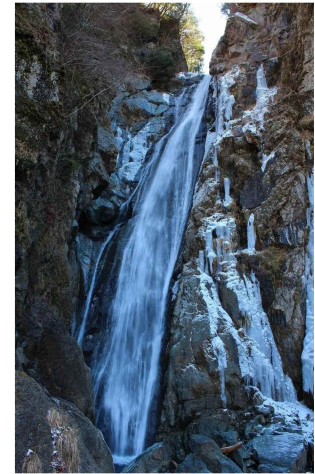
げ、国有林治山事業を行っています。

もう一方の興津川源流部の大平国有林は、山梨県境南側に位置し国有林内には、県の天然記念物に指定された「大平のコウヤマキ（根廻り8.8m、樹高17m）」が有名です。

どちらの国有林も急峻な地形にあり、浸食防止等の施業が中心となっており、森林の約8割が天然林です。

主な業務としては、境界の管理、入林者に対するマナー向上や安全確保のための巡視を行っています。管内の国有林・官行造林は奥大井県立自然公園、東海自然歩道等に指定されており、「山を楽しむ入林者」が多いところ

「コロナ渦」の中、春先は「新緑のお客さん」は僅かでしたが、「GOTO」の効果か「紅葉、初冬のお客さん」は右肩上がりでした。ガイドを利用した2～3名の比較的高齢女性の「プチ登山」が印象的でした。



安倍の大滝
(梅ヶ島国有林(県立自然公園))

梅ヶ島・大平・井川（官造）地域は、「ヤマビル」が生息している地域で、その対策は「必須」です。写真は、「百均」



ヤマビル対策

で購入した「シュシュ」に「ヤマビルファイター」をタップリ染込ませ足首につけたものです。割と効果があります。マネしてください。「枝先」からのお客さんは・・・諦めましょう。

令和2年4月から再任用で勤務しています。「肉体的な劣化」は止むを得ないものと、素直に受け止め「無理」をせず、皆様の迷惑にならぬよう勤めたいと思います。よろしくお願いします。

発行所 関東森林管理局
編集 総務課
TEL (027)210-1158
FAX (027)230-1393